

地球の食料庫、豪州&ニュージーランドを読む

ウェルス
Wealth

15. March Vol. 647



新たな市場の建設が進むシドニーフィッシュマーケット

From Oceania
To Japanオセアニアの人気商品紹介
第439品 ムープレミアム
フーズのグラノーラヨーグルト

22

中国、豪産ワイン関税を撤廃へ 月末に輸入再開か

N E W S H E A D L I N E

【ワイン】	ワイン用ブドウ過剰供給、主要産地が窮地	3
【酪農】	減少傾向の豪牛乳生産が反転、1%増に	4
【酪農】	NZ粉乳業界、中国以外の市場に注目を	5
【酪農】	NZの酪農業、豪の乳製品輸入急増で恩恵も	6
【畜産】	来年度の畜牛取引価格、24%上昇予想	6
【畜産】	今後の豪畜牛価格動向、メカルドが分析	7
【畜産】	と畜場の監視カメラ、動物福祉認証で必須に	7
【畜産】	豪2月の牛肉輸出量は3割増、日本向け最大	8
【畜産】	生体牛輸出が回復へ、前年度超え予想	8
【穀物】	豪1月小麦輸出、最盛期入り前月比2倍に	9
【穀物】	豪のソルガム生産、収穫目前で良好見通し	9
【穀物】	豪産マメ類1月輸出、3分の1に減少	10
【穀物】	豪コメ大手サンライス、対越投資拡大へ	10
【食品・飲料】	和田フードテック、パースに熱々弁当自販機	11
【青果】	スーパー価格問題、青果生産者から非難続出	11
【食品・飲料】	コールズ、サプライヤーにコスト削減要求	12
【食品・飲料】	豪のベーカリー業界が活況、小さな贅沢求め	12
【食品・飲料】	酒屋行くのはQLD州で、高額支出はSA州	12
【食品・飲料】	超加工食品、32種類の健康障害の原因に?	13
【食品・飲料】	SA州で外食の倒産相次ぐ、支出減少で打撃	13
【水産】	NTでオイスター養殖、地域の雇用促進も	13
【環境】	プラを劣化させず再加工、新興企業が開発	14
【その他】	農業での信頼ブランド、1位はエルダーズ	14
【政策・投資】	NZと湾岸協力会議、約1年ぶりFTA協議	15
【食品・飲料】	NZ2月食品価格、上げ幅約3年ぶり低水準	15

SPECIAL REPORT

多様化する食のかたち
フードトレンド・レポート19 第10回 話題のプラント
ベース・スーパー

有為転変

20 第197回 NEMESIS (報復)
の政治、馴れ合いの政治日本に売り込め!
チーム・オーストラリア21 国際食品・
飲料展FOODEX訪問ルポ

16 豪・NZ林業ニュース

17 海外農業・食品情報

18 今週の農業1行フラッシュニュース!

22 ウェルス掲示板

23 豪主要農畜産地域の降水量

24 豪・東部地区若齢牛指標価格(EYCI)

24 ウェルスのトリビア

24 湖城の窓から

(花音)

あの少ししょっぱい味噌と
鯉の風味が恋しい。本当の日
本の味はオージーたちの口に
合わないのか? いやそんな
ことはない。正統派の味噌汁を
オージーたちの間に広めたい。

その衝撃が忘れられず、現
地のスーパーでミソスープと
書かれたインスタントを買っ
た。わくわくしながらお湯を
注ぎ一口。あれ? 汁がとても
薄い。味噌入ってる? という
くらい薄い。ミソスープとい
うより単なるスープだ。

ことの葉
本物の味

【食品・飲料】

和田フードテック、パースに熱々弁当自販機

和田フードテック（大阪府大阪市）がこのほど、オーストラリアのパースで国内初となるホットチェーン弁当自動販売機の運用を開始したと発表した。顧客はできたて熱々の和食弁当を、わずか17秒で購入できるという。

現地企業 VenChef と提携し、日本料理店 Tokyo Station に自販機を設置した。同自販機は温度や在庫情報、機器の状況などをクラウドで管理する。飲食店の販売チャネルの拡大に寄与するという。

和田フードテックのジェイソン・チェン最高経営責任者（CEO）は、ウェルス編集部の取材に対し「香港や日本で展開した経験を生かし、オーストラリア市場にホットチェーン（高温物流）のソリューションを導入した」と述べた。

同社は労働力不足や食品安全への懸念は、多くの先進国で共通する問題だと指摘。自動化や省人化を可能とする同社の「ホットチェーンプラットフォームサービス」は大きな可能性

性があるとした。

同 CEO はまた、『デザインインジャパン』の戦略を

用い、顧客体験を向上させるためにオーストラリア版にも改良を加えた。市場の B2B クライアントとエンドユーザーの品質と満足度の向上に貢献できる」と述べた。

パースでの事業が軌道に乗れば、シドニーやメルボルンにも年内に展開し、100台以上の自販機を設置したいという。



豪初の弁当自販機は注目の的（同社提供）

【青果】

スーパー価格問題、青果生産者から非難続出

オーストラリアの大手スーパーは、正当な理由もなく野菜や果物の納品を拒否する——。青果の生産者が上院調査会が実施した公聴会で証言した。生産者に支払われる青果の代金も、生産コストの上昇に関係なく、ここ10年以上で変わっていないと訴えた。

ウールワースやコールズの価格問題の公聴会が12日にニューサウスウェールズ（NSW）州中西部のオレンジで開催された。農業誌ウィークリータイムズによると、出席した生産者は「スーパーは、ズッキーニが真っすぐでなければ納品を拒否し、カリフラワーは大きすぎるといった拒否する」と証言した。

また別の生産者は、2011年に1キログラム当たり2.6豪ドル（1豪ドル＝約97円）だったリンゴの納品価格は、23年9月時点でも同じだと述べた。スーパーの価格設定は安売りを前提としており、その間の12年間で50%上昇した人件費や、物流、肥料、エネルギーなどのコスト高騰は考慮されず、将来に備えた再投資ができないと訴えた。こうしたスーパーの行為により、業界を離れた生産者も出たという。

公聴会は、タスマニア州ホバートでも実施された。全国農業者連盟青果部門のグリフィス氏は「大手スーパーは、特売を発表すると値下げ

分をサプライヤーに全額負担させる」と非難。スーパー名や商品名は「生産者にとって契約上のリスクになる」として明かさなかった。

公聴会は今後、ビクトリア州でも実施され、レポートは5月に発表される予定だ。

競争委、スーパー問題を最優先

こうした大手スーパーの動向について調査会のマッキム会長は、「小規模のサプライヤーが不当な扱いを受けている」と述べた。また、市場介入なしの現行の規制は失敗したと指摘し、生産者や消費者を保護するには、より強い規制と競争が必要だと強調した。

また、1年間の調査を行うオーストラリア自由競争・消費者委員会（ACCC）のキャス・ゴットリーブ委員長は、「2年間で14%と大幅に上昇した食品価格を反映し、スーパー業界における価格や消費者保護、競争の問題を最優先する」と述べた。